「働く」について一考察

使用者委員　米盛庄一郎

多くの中学生、高校生、大学生、最近は大学の留学生が職場体験学習、先輩に学ぶ、インターンシップという課題にて、2 日間から長い時には 1・2 週間にわたり私どものグループ会社の仕事場にて学ぶことがあります。その大きな目的は通常の学校での授業と違い、実際職場にて働いている方々の様子を見たり、話を伺ったりして自分自身の将来の参考になればということになっています。学校の外に出て学ぶことは必要だとは思いますが、子供たち、学生が少しおとなしいように感じられます。形式的に学習の一課題となっているのでしょうか?建設産業に従事しているので危険な作業はいつも隣り合わせです。一歩間違えば重大事故になるような作業も多くあります。しかしながら、そのリスクを低減するため日頃から安全教育や安全巡視、安全設備の充実にコストをかけてきています。課題の始まりには時間の許す限り出席して話をするようにしていますが、学校側の注意事項に危険な作業はさせないでくださいとか、作業員として扱わないでくださいとかの文面があると、少し違和感を持ってしまいます。危険な作業はもちろんさせませんが、危険な作業を危険だとか、どこに危険が潜んでいるかということを理解してもらうことは重要と考え、その説明に時間をかけているからです。開会においての話の中身は、「今回の体験が将来の皆さんの職業観に役に立てばと思いますが、たかが少しだけの体験でその仕事が理解できることはありません。仕事の奥深さは汗水流してこそ少しずつ理解されるものです。今皆さんはご自分に与えられた学校での課題を確実にこなして、将来の就職に備えてください。」と毎回お伝えします。仕事には必ず、目標や期限があります。これを達成するためには技量や経験そして仕事に対する責任感が必要です。学校での勉強は、その前の準備段階で、社会人になるためのトレーニング中なのです。勉強は学校を卒業したら終わりではなく、社会に出ても技量、技術を磨くために必要なのです。

最近働き方改革の話題が多く出てきています。日本国憲法には国民の 3 大義務、「教育の義務」「勤労の義務」「納税の義務」が記載されています。働くことに関しては日本国では義務なのですが、給与や休日、福利厚生等に注目が集まり、仕事に対する自分自身の考えが本来あいまいになっているように思えます。働くとは自分を生かし、成長をしてこそやりがいがあると思います。もちろんそれに伴う待遇面も良くなっていくことも大切ですが。今回の働き方改革で多くの人の「働くこと」が少しでも喜びとなってほしいものです。